

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2671600233		
法人名	有限会社 康生会		
事業所名	グループホーム 三愛の里		
所在地	〒621-0002 京都府亀岡市千歳町千歳白髭17番地		
自己評価作成日	平成26年9月29日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどかな田園風景や近くには出雲神社があり、散歩したり四季を感じられる場所に立地している。1日1400キロカロリーの食事の料理を全て手作りで提供している。出来るだけ薬に頼らず、食材や運動で自然にお通じがあるように努めている。体力維持やADL低下を防止するためにラジオ体操や足踏み体操など毎日行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花		
所在地	〒606-8434 京都市左京区南禅寺下河原町1番地		
訪問調査日	平成26年10月14日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

亀岡市の北部、出雲大神宮のそばの小高い山の上に建っている、開設10年になるグループホームである。亀岡市内を一望にでき、四季の眺めを楽しむことができる立地、ゆったりとした居間とベランダのある住まいは利用者にとって違和感なく、落ち着けるホームである。利用者の重度化のため、暮らしのなかでできることが少なくなっており、そのため食事には力を入れている。旬の野菜を使い、手作りで、さまざまに工夫された献立である。少ないながらも季節ごとの外出をしている。毎月の広報誌と利用者ごとの便りを家族に送り、家族は受診同行、年2回の家族会参加等の協力があり、家族との信頼関係が築かれている。職員も前向きで、熱意があり、理念を遂行している。利用者は自分を主張しながら、暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・職員全員に共有している。 ・入所時にはご家族にも話している。 ・毎週月曜日は全員で唱和し、実務に生かしている。	理念は「利用者、家族の身になってのお世話、感謝と謙虚な心で介護、住み慣れた地域で楽しく有意義な尊厳ある生活(要約)」の3項目を職員の話し合いで定め、広報誌に掲載し、利用者や家族、地域の人に周知を図っている。利用者はよりそって話を聞いてくれる職員に信頼を寄せていることが表情や言葉から察せられると管理者は感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・事業所は地域の一員として、日常的に交流している。 ・地域の店を利用している。(買物、美容室等)	町内会に加入し、回覧板がまわってくる。宝船祭り、出雲大神宮の御田植祭、運動会等、地域の行事に参加している。利用者製作の貼り絵、編み物、ペーパークラフト等の作品も出展している。小学校の運動会を見学に行く。毎月地域の店に外食に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・認知症等の相談を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議はきっちりしているが、マンネリ化している。 ・出た意見は生かしている。	家族、自治会長、地域住民、市高齢福祉課、地域包括支援センターがメンバーとなり、隔月に開催し、記録は全家族に配布している。市から「災害の際の対策は消防署に相談して立てるように」等、貴重なアドバイスをもらっている。	地域に根差した地域密着型サービスのグループホームとして、地域の人に支えられ、地域を支える事業所になるような意見をいただけるように、事業所からの報告に工夫すること、地域の様々な立場の人にゲストメンバーとして参加してもらうこと、以上の2点が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営推進会議、集団指導等で協力関係を築くよう取り組んでいる。	市とは日常的に報告、相談を怠らず、連携をしている。市にはグループホーム連絡会がないので、全国グループホーム協会、京都府グループホーム連絡会に参加し、研修受講等している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・一度も身体拘束をしていない。 ・正しく理解している。 ・玄関の施錠は必要な時もある(外部侵入、ご利用者の重度化等)	「身体拘束をしないケア」について、重要事項説明書に明記し、毎年職員研修を実施している。職員はスピーチロックについても認識している。事例はない。玄関ドア、非常口、居間からベランダへのドア等、すべて施錠していない。利用者は敷地内は自由に歩き回れる。表門を施錠している。	利用者の毎日の状況観察をし、職員の話し合いにより、表門の施錠を外す時間帯を試行し、その時間を徐々に広げることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待はない。 ・学ぶ機会をもち、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・学ぶ機会をもち、活用出来るように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・十分な説明を行い、理解出来るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見や要望を聞き、運営に反映させている(年2回の家族会や面会時)	家族は多い人は毎月、少ない人でも年2回の面会があり、利用者の受診に同行している。広報誌を毎月発行し、個別の便りとともに送付している。ホームで撮った写真を進呈している。職員異動を報告している。花見会と敬老会の年2回、家族の参加を求め、利用者と食事等のあと、家族会を開催している。「もっと歩かせてほしい」等、家族の意見に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営を話し合う職員会議を月2回、そのうち1回は研修、他の1回はカンファレンスをしている。外部研修参加者は報告書と伝達研修が義務づけられている。法人内研修を実施している。「投与された薬の点検は遅出がよいのでは」「利用者ごとの薬名の一覧表を掲示してほしい」等の意見や排水の油や汚れを取る方法等、職員は積極的に意見や提案をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・就業環境の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・内部研修、外部研修を受講し、トレーニングの機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・GH協会、GH連絡会に加入しており、交流し研修している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・特に最初の一週間は信頼関係を築くように努力し、その後も安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入所前、及び生育暦や生活全般を尋ね関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・初期対応を見極め、必要とする支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・色々の機会をとらえ、共に過し支えあう関係を築く努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族の協力のもと、家族の絆を大切にしながら本人をささえている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・支援している(家族と理髪や食事、法事に参加)	本の好きな利用者を図書館へ同行し、利用者は本のおいや図書館の雰囲気を楽しんでいる。利用者を先祖のお墓参りに同行している。利用者の馴染みの美容院へ同行している。茶道の先生をしていた利用者の弟子等が来訪する。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・日中、お昼寝以外は出来るだけ、リビングで体操や歌を唄い、皆とコミュニケーションがとれる場を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所後も今まで同様のフォロー、相談に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・一人ひとりの意向を尊重し、希望にそえるよう努力している。	利用者や家族の情報により、利用者の思いを聴取している。「安心してくらしたい」「人の役に立ちたい」等が記録されている。生活史は独自のシートをつくり、書きこんでいる。農家の生まれ、女中奉公に行った、趣味の編物は女の先生に習った、子どもころの愛読書は『幼年倶楽部』等、記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご本人の生活歴や環境に配慮しながら無理強いせず、安心して生活してもらえるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・生活チェック表にバイタル、排泄状況、食事摂取量、起床、就床時間、入浴等毎日記入し全職員が把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・月2回の職員会議と1回のカンファレンスでケア方法を決めている。必要に応じてご家族の協力をお願いしている。	介護計画はサービス担当者会議を経てケアマネジャーが作成し、職員に説明している。「認知症の周辺症状がでないように」「見守り」「家事手伝い」等の介護計画である。介護記録は介護計画ごとに実施の記録があり、別に時間ごとの利用者の様子は書かれているものの、介護記録に連動した記録ではない。カンファレンスの会議録はあるものの、それをまとめたモニタリングはない。	利用者の生活史等をもとに、利用者ごとに個別で、生きがいのある暮らしができるような介護計画をたてること、介護記録は介護計画の項目ごとに実施した際の利用者の発言や表情を書くこと、介護計画の項目ごとにモニタリングの記録を残すこと、以上の3点が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ケースレコードは毎日記入し、特変事項等、気づき表に記入し、カンファレンス時に共有しながら、ケアの実践に繋がっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人やご家族の状況に応じて対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・一人ひとりが安全で楽しい暮らしが送れるよう、その方の能力を発揮してもらえるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人及び家族の意向を優先し、受診して頂いている。	従来のかかりつけ医に受診している利用者もあり、亀岡病院に変更した利用者もある。亀岡病院は総合病院であり、ほとんどの科を受診することができる。内科医が毎月往診にきてくれる。家族が受診同行する場合は、ホームでの情報を文書にしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・週1回の訪問看護師に身体状況がわかるよう記録を閲覧してもらったり、異変時には指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・病院関係者と常に情報を交換し、関係強化を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・病院、家族と話し合い方針を共有し、支援に取り組んでいる。	利用者の重度化や終末期に関して、管理者や職員は対応していきたいという思いをもっているものの、文書化した指針はない。利用者や家族の意向は聞いている人もある。往診の医師があり、訪問看護との連携をしている。職員に終末期の医療に関する研修を実施している。	「利用者の重度化、終末期に向けた対応に関する指針」を作成し、それをもとに説明しながら、利用者や家族の意向を把握することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・2ヶ月に1回、救助訓練を実施し急変時の心構えや実務を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・2ヶ月に1度、避難訓練をして、火災や地震に備えている。	消防署や地域の人との協力を得ながら、火災、夜間、抜き打ち等の避難訓練をしている。備蓄を準備し、ハザードマップを掲示し、職員は危険箇所を認識している。AEDを備え、職員は訓練を受けている。近くの人にも周知している。緊急時対応マニュアル、災害時対応マニュアルを作成、職員連絡網を備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・個人のプライバシーを守り、人格を尊重している。	利用者のプライバシーと尊厳には十分配慮し、毎年研修を実施している。丁寧な言葉遣いが大切、しかし、堅苦しくならないように、注意している。意思表示の困難な利用者の自己選択の支援は、表情や飲み方、食べ方等を観察し、希望を判断している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・本人の思いや希望を聞いて、自ら決めてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・その日の状態にもよるが、希望にそえるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・季節に応じて身だしなみやおしゃれな服希望する服を着てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・好きな物、食べたい物を聞いて、1週間のメニューを決めて、貼って見えるようにしている。準備や片付けも一緒にしてもらっている。	利用者の希望を聞きながら1週間分の献立を立てている。野菜が豊富な季節感のある和食である。ホームでとれた野菜や近くの人からのいただきものも利用している。食材の買物は職員が、調理の下ごしらえ、盛り付け等は利用者と共にしている。食卓に花を飾り、お茶を置き、職員も共に会話しながら食事を楽しんでいる。食事に課題のある人には1品ずつ並べる等、工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・栄養バランスや水分の確保、状態に応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・本人の力に応じて口腔ケアを支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄はチェック表を使用し、時間を見て声かけや誘導をしている。 ・リハビリパンツやパットを減らせるよう支援している。	排泄チェック表を記録し、利用者ごとの排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。ほとんどの利用者がリハビリパンツとパットを使用している。声掛け誘導の結果失敗が少なくなっている。排便については運動、水分、食物繊維に力を入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・自然に排泄できるよう食事も工夫している。水分補給も時間ごとに飲み物を出している。又、朝や午後からでも運動をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・できるだけ、希望にそえるよう支援している。入るかどうかを聞いて、なかなか入らない人には声かけを工夫して入浴できるようにしている。	浴室は比較的広く、大きな窓により明るい。午後から夕方までの時間帯で、週に3回の入浴を支援している。入浴拒否のある人には声掛けに工夫している。利用者は職員との会話を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・その時の状態に応じて活動してもらい、生活のリズムを整えている。夜間よく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・一人ひとりの服薬情報を見て理解し、飲み忘れや誤薬がないようにしている。夜間よく眠れるように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・一人ひとりの趣味や性格など把握し、役割や楽しみを持ってもらえるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・ご家族様の協力もあり、外出して食事に行ったり家で過したりしている。 ・月に1度外食会を行い食事をしてどこかで寄り道をしてきたり支援している。	グループホームを出ると急坂になっているため、外出はすべて車である。出雲大神宮への初詣、花見ドライブ等の季節の外出や外食等に出かけている。遠くは日吉へ花見に行ったこともある。利用者の個別の外出としてはカットのため美容院に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ご本人が希望するものはご家族様に持ってきて頂いたりこちらで立て替えて購入したり希望にそえるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご家族様に了解していただき、ご本人が自ら電話をしたり、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用の空間には花やご利用者様の作品を飾ったり季節を感じられるようにしている。 ・室内の温度、湿度にも気をつけ、調整している。	玄関前のプランターに季節の花を植えている。玄関ホールの先にゆったりとした居間兼食堂があり、大きなガラス戸の外にベランダ、ここからの見晴らしが美しい。居間の食卓、食器棚、書棚等家庭的で、いくつもの花瓶に花を生けている。テレビの傍には大きなソファがある。認知症の刺激となる強い光や大きな音はない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・一人ひとりに決められた座席があるが、ソファもおいてあり、交流できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ご本人が使い慣れた物を使って頂き、ご本人の作品を飾ったりご家族様の写真を貼ったり、居心地が良いように工夫している。	居室は洋間で大きなクローゼットがついており、ベッド、カーテン、エアコンが設置されている。窓が大きく明るい部屋である。利用者は整理ダンス、書棚、ケース、テレビ、机と椅子等を持ち込んでいる。机の上の筆記具、日記、化粧品等が利用者らしさを表している。妻の写真と位牌、夫の写真、家族の写真等をケースの上に飾り、壁には自分の水彩画、孫の書等を掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室のドアにご本人の写真つきの表札を貼り、居室を確認できるようにしている。 ・必要な時は手すりなどつけ、安全に過せるよう工夫している。		